

会 議 録

1 会議名

平成27年度第12回板倉区地域協議会

2 報告（公開）

(1) 答申に対する市の方針決定について

- ・板倉ふれあい市場の廃止について
- ・板倉保養センターの利用料金の変更について

(2) 公民館・生涯学習センター等の再配置方針について

(3) 今後の図書館分室の在り方について

(4) 公の施設使用料の減免制度の見直しについて

2 協議（公開）

(1) 板倉区の小学校の在り方について

(2) その他

- ・地域活動支援事業の活動報告会について
- ・平成28年度当初予算案で予定する地域活動支援事業に係る配分額について
- ・平成28年度地域活動支援事業の概要（案）について
- ・地域活動支援事業に関するQ&A（案）について

3 開催日時

平成28年2月23日（火） 午後6時00分から午後7時45分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 市民活動室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：平井達夫（会長）、大口ハル子（副会長）、新井清三、小林良一、徳永妙子、小川政彦、西田節夫、中嶋隆一、古海誠一、上原明紀、古川

政繁、小林澄子、丸山公星、上野きみえ

- ・ 社会教育課：大山課長、佐藤係長
- ・ 高田図書館：植木副館長
- ・ 事務局：板倉区総合事務所 五十嵐所長、久保田次長、山岸総務・地域振興グループ長、武藤市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、山中産業グループ長、高嶋建設グループ長、佐藤産業観光班長、嘉島地域振興班長、樋口主事（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【久保田次長】

- ・ 地域協議会の開会を宣言

【平井達夫会長】

- ・ 挨拶

【五十嵐所長】

- ・ 挨拶

【平井達夫会長】

- ・ 本日は委員全員から出席。上越市域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ (1)、「答申に対する市の方針決定について」を議題とし諮問第114号「板倉ふれあい市場の廃止について」事務局の説明を求める。

【山中G長】

- ・ 資料No.1により説明

【平井達夫会長】

- ・ 質問・意見が無いので、諮問第114号「板倉ふれあい市場の廃止について」は以上とする。次に諮問第115号「板倉保養センター利用料金の変更について」事務局より説明を求める。

【山中G長】

- ・ 資料No.2により説明

【平井達夫会長】

- ・ 質問・意見が無いので、諮問第115号「板倉保養センター利用料金の変更につ

いて」は以上とする。次に（２）公民館・生涯学習センター等の再配置方針について、また（３）今後の図書館分室の在り方について、社会教育課から一括して説明を求める。

【社会教育課 大山課長】

・資料No.3、4により説明

【古川政繁委員】

・浦川原、頸城の高田図書館の分館と公民館図書室の違いは、どういう考えか。

【社会教育課 大山課長】

・浦川原と頸城は合併前から図書館ということで、図書館司書を置いてきたという経過がある。以前から図書館という形でしたので、そこについては、図書館ということに残る形になる。

・板倉を含め11区については、公民館図書室ということで変わるが住民利用にとって何ら変更はない。位置づけの変更が変わるということだけで、違いは図書館法による図書館と公民館図書室の違いになる。

・これまでも地域の人々の活用という視点に着眼をして、地域に根付いた活動が可能になるということを考慮して、この様な形に変更させていただくものである。

【中嶋隆一委員】

・資料No.3によると、板倉区の分館は、コミュニティ圏拠点施設に該当するとある。小学校に分館がある場合、太枠で囲ってある公民館は本部として各地域の拠点になるが、他の寺野分館、孤立分館、筒方分館は本部ではないという意味か。

【社会教育課 大山課長】

・針分館は針小学校と2枚看板であることを表記したもので、ここは優先的に残すとか、ここは廃止するという事ではない。地域の方とお話しさせていただきながら方向性をまとめていくということで、ご理解いただきたい。

【中嶋隆一委員】

・私ども中山間地にある集会所は、そこしかない。実際に集まる所はそのまま使ってもよろしいという意味合いか。

【社会教育課 大山課長】

・地域に入っているいろんな議論をさせていただき中で、見極めさせていただきたいと考

えている。

【古海誠一委員】

・図書館について浦川原分館と頸城分館は、引き続き高田図書館の分館という位置付けだそうだが、頸城分館というものは希望館の中にあると思うが、非常に品揃えが充実していて、板倉と雲泥の差で板倉の図書を時々借りるが、ほとんど更新されてなく、魅力が無いから段々借りなくなってしまう。

・今の提案だと益々、我々の所が、おいてきぼりかという心配をしているが、1つの尺度として、ここ2・3年で板倉の図書室にいくら位の図書の更新をしたものか教えていただきたい。

【社会教育課 大山課長】

・今まで図書館費で図書の購入費を計上していたが、今度は公民館管理運営費の中で予算を持ち、図書購入は継続していく。ただ、予算については年々で増えたり減ったりと変動する。地域の声を聞いた上で、活動に資するような図書を購入するよう配慮するので、ご理解をいただきたい。

【高田図書館 植木副館長】

・板倉分室については、25年度で14万8千円、26年度は13万2千円、今年度27年度は7万9千円である。

【平井達夫会長】

・質問・意見がないので、(2)「公民館、生涯学習センター等の再配置について」、及び(3)「今後の図書館、分室の在り方について」は以上とする。次に「公の施設使用料の減免制度の見直しについて」を議題とする。事務局の説明を求める。

【武藤G長】

・資料No.5、別紙1～4、により説明

【小林良一委員】

・寺野地区は行政の方から、寺野ふれあい交流センターを無料譲渡されたが、私ども運営するのに地縁団体とかで借りられても、料金をいただくことで取り組んでいるが、その辺は格差があってもよろしいか。

【武藤G長】

・よろしいと思う。

【小林良一委員】

・こちらの方に全部託された訳で、いろいろと諸費用がかかるので、地縁組織が使っても有償という形で取り組んでいきたいが、その辺の考え方を教えてほしい。

【武藤G長】

・管理運営はお任せしているので、必要に応じてやっていただいて問題ないと思う。

【平井達夫会長】

・他に質問・意見がないので、(4)「公の施設使用料の減免制度の見直しについて」は以上とする。5の協議(1)「板倉区の小学校の在り方について」を議題とする。

・先日2月12日、勉強会での内容を確認する。12月末に各地区連絡協議会会長から出された意見書の内容について、14名の委員より各々意見を出した状況である。まとめとして3地区と1地区では意見が大きく違い、針、宮嶋、山部と対して豊原地区が、かなり意見に相違がある。

・豊原地区については、存続希望で統合は反対だということだったと思う。他の地区と大きく違うので豊原地区へ出向き、この3地区の状況及び今後の児童数が減少する数字を示して話し合い、意見交換会をするという話が大きくまとめた勉強会の内容だったと思う。

・意見交換会の開催日は、会長と事務局で話をして決めてくださいということであった。

・資料は平成28年度以降の児童数の見込みということで、針小学校、宮嶋小学校、山部小学校、豊原小学校と4校についての児童数の推移が載っている。右側に平成27年5月の学校基本調査及び、28年1月現在の住民基本台帳よりということで、平成34年度の1年生は平成28年1月末日現在の0歳児数を記載した。

・網掛けについては複式学級である。2月12日は勉強会ということで、再確認をさせていただいた。事務局へお願いした数値の表は、これでよろしいか。

【小林良一委員】

・実際にもの凄く減ってきているが、グラフ化するといかに減ってくるかということを見ても目視できる。

・針、宮嶋、山部校区のトータルの数字の推移、それから全校の推移、それから豊原小学校のトータルの数字の推移、トータルでいいが何年後にどれ位の形で減っていく

かというのは、グラフ化すると非常に分かり易く理解しやすいと思う。

【平井達夫会長】

・グラフ化すると非常に分かり易いという提案だが、事務局どうか。

【山岸G長】

・グラフ化させていただく。確認だが針、宮嶋、山部、豊原の各小学校の推移と全校でよいか。

【小林良一委員】

・針小と宮嶋小と山部小のトータルと豊原小と全校の3本です。どういう形になるか一目瞭然だと思う。

【古海誠一委員】

・グラフ化について、私もそのとおりだと思う。一目で見える化をしないと、なかなか納得しない。私は個人的に各集落別の過去20年間、0歳から20歳までの表を作った。それを見ると一目瞭然に、どこが増えて今ピークになっていて、これからどんどん減っていくかが直ぐに分かる。

・今、豊原地区が反対ということになっているが、桜ヶ丘、青葉、緑ヶ丘、ここら辺が今、どこから増えていって、今、どういう状態に減ってきているのか、そこら辺もきちっと分かるので、皆さんに提示して地域の方とまた相談をしたらいいのではないかと。できるだけ隠さないで見えるようにしてほしい。

【山岸G長】

・先日の勉強会で西田委員から町内会別の資料がいいのではないかと話があったが、ベースにある小学校の今の状況に足した形でいいのではないかと。このとおりになっている。

・各町内会のデータというのは、今現在のものではなくて推移か。国勢調査でいう例えば1から5歳だとかでよいか。

【古海誠一委員】

・それをやってしまうと、あまりにも当て付けになってしまうから、板倉は50集落あるので、それを全部のグラフでなくても表でいい。

【武藤G長】

・集落別と年代別の1枚の表になる。それを推計というとなん枚にもなってしまう。

【古海誠一委員】

- ・ 0歳から20歳までくらいで、A4で1枚になる。

【武藤G長】

- ・ 現状の中で集落別と年齢別、今、市では月末時点でおさえているので、これから最新のものを作ると2月末日だが、その時点における町内会別と年齢別。
- ・ いくらでも拾えることは拾えるが、あまり意味がないのではないと思われる。

【古海誠一委員】

- ・ 自分の学区はどういう推移で、子供達が増えて今、ピークになっていて、その後どう減っていくかというのが見えるので、今の資料はこれから7年間の小学校の子供の推移しかなく、今のことしか見えていないので、なかなか理解しないのではないと思う。

【武藤G長】

- ・ 古海委員が作られた20歳までの表があるのですが、こんな形の表でよろしいか。

【古海誠一委員】

- ・ 素人が作っていて信用度が無いので、公式な立場でつくっていただければと思う。

【武藤G長】

- ・ 100歳までとなると、もの凄く多くなってしまいうので、1枚では見えなくなってしまう。
- ・ 20歳くらいまで、1枚の紙の中に入れようと思えば、皆さんが見やすい形では作れるだろうと思う。

【平井達夫会長】

- ・ できれば、ある程度いろんな形の中で方向を見ていただきながら、説得力のある話をしていかなくてはいけないので、我々委員の提案なので、願います。

【小川政彦委員】

- ・ 少子化はいいが、もう1方で行政は観光に力を入れて板倉区を活発にして、上越市を活発にすると予算の中に組み込んで動きがあるので、将来20年というのは増えるかもしれないので、減るというネガティブな考えよりも、もう少しポジティブな考えの方も一理ある。
- ・ 話が蒸し返って申し訳ないが豊原地区には、もうこの数字は今の最新ではないが減

るのは、ある程度知っている訳で、知っていて統合は反対だとは言っていない、今は段階的にしてくださいという話をしている。

・私の意見を最後まで言うと、まず板倉区で4校区・6地区の意見交換会の結果が出た。地域協議委員の結果も出た。結論は統合ありきで願うという結論に達した。まず村山市長に地域協議委員の特権である意見書を使って要請をすべきではないか。組織の検討部会を動かしてもらい設置してもらおう。今予算の説明に入っているの、どうせ検討部会が動くのは28年度の4月以降だと思うので、今、このタイミングで意見書を使って、統合ありき意思表示をまずして、人員の枠を確保してもらおうと、予算が必要なら予算を確保してもらおうという動きをして、意見書を私は早く出した方がいいと思う。

・次にその手法として段階的にするか、これから検討部会の中で検討すればいいのではないか。元に戻って申し訳ないのですが、今日は協議なので私の意見を述べた。

【小林良一委員】

・意見は、ごもっともだが、先般の勉強会では、とりあえず一本化ということで動けるだけ動いてみて、その結果、説得に乗ってくれば、それはそれでいいし、もし、だめな場合はそれを踏まえた形で具申していく形の話だったと思う。

・2校を一緒にするとかどうのこうのではなくて、とりあえず1本化という方針で、地域協議委員の方向性は決まったのだから、豊原地区を説得しましょうと。説得した結果、どうしても平行線の場合もあり得るし、統合する場合もありえるけど、そこまでやった結果で、具申するという形で考えている。

【小川政彦委員】

・前は地域協議委員の人が13名の方が出席して、議長を残して12名の意見を求めた時の意見は、段階的統合は確か6割か7割だったと思う。その大きな話の中で戻って申し訳ないが、私は豊原小学校へ行って意見交換会をするのは反対なので、最後まで抵抗して述べさせてもらおう。

・まだ2回目の協議である。私は地域協議会の委員が、本当に豊原小学校に行くとは思っていなかったの、申し訳ないが、もう一度委員の意見を聞いてほしい。

【平井達夫会長】

・小川委員の話は、取りあえずは、そういう形で地域協議委員の意見として、もうま

とめていいのではないか。豊原地区には行く必要はないのではないかといいことだが、それについて意見はどうか。

【古海誠一委員】

・ 前回も議論して非常にそれは荒すぎて反発を招くということで、もう一度豊原地区が納得するような見える形にして、意見交換をやって意見を求めたらどうかという話だったと思う。

【平井達夫会長】

・ 古海委員から話があったが、大体そういう形の流れであった。非常に大事な問題であるということで、20日の地域協議会の活動報告会の中で、今後の地域協議会の進め方として、非常に地域の温度差がある中で、この温度差を少しでも縮める必要がある。これがやはり、話し合いにより、いろいろな立場、持ち場、地域によって、しこり、わだかまり、こういうものがあるだろうと、それを残さないためにご理解・納得いただくように、協議委員が再度、私は、その時にはいろいろな問題があるから、豊原地区とは言わなかったが、再度、意見交換会を実施して、そして全体の意見をまとめて、最終的には村山市長という形になる訳だが、地域協議会の意見として、最終まとめをしたいということ地域活動報告会に最後の締め括りで話をさせてもらった。

・ 豊原校区へ行って意見交換会をしようという話をしたが、12月末に皆さんから出していたいただいた4校区、板倉地域協議会に出してくれた内容について、説明する必要があるのではないか。

・ その中で特に私が話したいのは、小川委員の話ではないが、75%は統合に賛成という話はしないが、3校については「統合やむなし」という意見である。こういう中においても、今度私が話をさせてもらうが、宮嶋地区については「1校を望んでいる」と、これが1つの校区の考え方で、こういう意見もあったということも話をしなければいけない。当然、2校で進んで、そして段階的に1校にするという意見もあるし、こういうことで地域協議会としては、2月12日の勉強会の開催、それから23日の第12回の地域協議会開催で、意見交換並びに協議委員で協議をしたと話をさせていただきたい。その時に今、作っていただいた表にグラフをつける。また、20歳までの数字をつけるという形になっているが、こういうものを提示しながら統合に対して、理解を求めるといいことではないか。

・最後には協議委員の中では、いろいろな意見があったが、大多数は「1校に集約してもらった方がいいのではないか」という意見であったということも話しながら、しかし、この小学校の統合の問題、学校の問題については、上越市全体としても「地区住民の意見を十分に聞け」と、これで1つクギが刺されている。

・また再び、意見交換会に来たということを伝え、皆さんからいろいろな意見を拝聴しながら、そして、いずれにしても我々は1つの意見にまとめなくては行けないと、そんな形で進めたいと思っている。

【小林良一委員】

・小川委員から承諾できない部分もあるので再度聞いてくれということで、この場でもう1回表決して、地域協議会の意思決定を取りあえずしていただき、行くなら行く、行かないのなら行かない、その辺の反対の意見も大事であり、どのような形で取り組むか方針だけ決めていただきたい。

【平井達夫会長】

・小林委員からそういう提案があったが、いかがか。

【古海誠一委員】

・それでいいのではないか。

【平井達夫会長】

・豊原校区で意見交換会を再度行うことに賛成の方の挙手をお願いします。

【委員】

・(挙手多数)

【平井達夫会長】

・賛成多数で、豊原校区で意見交換会を再度行うことにする。後は開催日だが、3月は非常にスケジュールが混んでいるという状況である。また、豊原地区においても、同様の状況だが明日にでも、もう1回連協の会長へ日程調整の話をさせてもらうが、それでよろしいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・それでは、連協の会長へ日程調整の話を進める。板倉区地域協議会としては、豊原

地区へ再度、意見交換するというところで、決定させていただいた。

- ・続いて（２）「その他」に移る。地域活動支援事業の活動報告会について、事務局の説明を求める。

【山岸G長】

- ・地域活動支援事業の活動報告会ということで2月20日の地域協議会の活動報告会の折に、本年度は14団体から取組いただき、そこから3団体から発表いただいた。残る11団体から、次回の地域協議会の開会前に勉強会として、発表時間に1団体10分取ると約2時間かかるので、事業概要等は省略して内容については取組の成果と今後の課題に的を絞って報告いただく。目安としては各団体5分程度でよいか協議をお願いします。

【西田節夫委員】

- ・14団体の内、3団体から発表したのだから11だということだが、質問があると思うので、できれば14団体から来ていただきたい。

【山岸G長】

- ・事務局としては、3団体はよいのではないかと判断して11団体でという話をさせてもらったが、やはり14団体一同に聞いた方がいいということであれば、その様に案内するが、委員の意見を聞いていただきたい。

【上原明紀委員】

- ・参加していただいて、発表は聞いているので、改めて発表はしなくていいのではないかな。

【西田節夫委員】

- ・発表はいいかと思うが、やはり決算が出てくるので、決算の時の質問は受けたいと思うので、我々が採択した以上は、質問はやはり受けるべきだと思う。

【平井達夫会長】

- ・勉強会に来ていただき、質問があれば質問を受けるといった方がいいのではないかなと思いますが、その他、質問・意見はないかな。

【小林良一委員】

- ・事前にこの前の発表について質疑等があれば、来ていただくという形の方がいいのではないかな。空振りになってしまうとかわいそうである。

【古海誠一委員】

・年度末で、なかなか皆さん、日をとるのは難しい時期なので、私の考えとすれば、報告書を出してもらってあるので、それを見て委員から質問を出してもらい返してもらえばいいのではないかな。

【西田節夫委員】

・文書だけでなく本人から苦勞して、そこまでやったのだということが分からないと、ただ文書で「こうなりました」、「決算書はこうでした」と言うだけでは、本当の意見を聞くことができないので、できれば来ていただいて質問を受けることが一番大事かと思う。

【平井達夫会長】

・いろいろな意見があるが、3月は本当に忙しい。そうは言っても3団体について補助金をもらって、事業をやっているのだから、その辺は必要だという意見もある。

【丸山公星委員】

・いろいろと意見があると思うが、呼ぶか呼ばないかは多数決で決めたらどうか。

【平井達夫会長】

・いろいろと意見が出尽くしたので、これで採決をとる。最初に3団体も来ていただくという意見。それから質問があれば前もって3団体に質問事項を出していくという意見である。

【丸山公星委員】

・もう1つ古海委員が言われたように、来なくても書類審査での質問ということも選択肢としてあるのではないかな。

【平井達夫会長】

・それでは3つ、1番目、手を上げてください。

【上原明紀委員】

・1番目が3団体も参加するという意見。

【平井達夫会長】

・はい、2票。2番目が出る必要がないのではないかなという意見。

【委員】

・(挙手なし)

【平井達夫会長】

3番目は事前に書類を出すという意見。

【委員】

・(挙手多数)

【平井達夫会長】

それでは3番目の事前に書類を出すということで決まったので、何かあれば質問事項を出して事務局へ出してほしい。

【山岸G長】

・何か質問があれば質問があった時には団体から来ていただくのか、それとも私どもが回答をもらって伝えるという形か。

【平井達夫会長】

・20日に1回報告をやっているの、回答をもらってでいいのではないか。

【山岸G長】

・3団体については、この間の資料もあり、委員にも聞いていただいたので、それを踏まえて質問があれば受けるということで、他の11団体の方は先ほどの勉強会にお呼びする。

・去年は、1団体ずつ順番に入って、報告いただき質疑を受けたという形だが、本年は途中から他の団体の方も興味があれば、他の団体の話を聞かれる方がいれば同席していいと、発表者の後ろで自由に入って聞いていただく形にさせていただいたが、そのパターンで準備してよいか。

【平井達夫会長】

・同席してよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・そのような形でお願いします。

【山岸G長】

・承知した。

・配布資料の平成28年度当初予算案で予定する地域活動支援事業に係る配分額につ

いて、平成28年度地域活動支援事業の概要（案）、地域活動支援事業に関するQ&A（案）により説明

【平井達夫会長】

- ・質問・意見が無いので、地域活動支援事業の活動報告会については以上とする。
- ・これで協議事項を終了する。本日の会議録の確認は上原委員にお願いします。なお、次回の地域協議会の日程は、地域活動支援事業の報告会を行うため、3月22日、火曜日、午後5時から勉強会を行い、その後、6時半から地域協議会を行いたいが、委員の都合はいかがか。

【古海誠一委員】

- ・同じ日の同時刻に宮島地区の連絡協議会の総会があり、委員4人が欠席になるので、できれば変更していただきたい。

【山岸G長】

- ・23日が本会議の最終日だが、事務局はその日で変更をお願いしたいが、会長、副会長、委員はいかがか。

【平井達夫会長】

- ・それでは23日の時間は勉強会が17時、第13回地域協議会は18時半からということで、よいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・それでは、その様に決めさせていただく。

【山岸G長】

- ・地域活動支援事業の発表団体の3団体への質問を、できれば3月11日金曜日位までに様式を問わず事務局の方へ連絡いただきたい。

【平井達夫会長】

- ・3月11日までに提出とその様に進めさせていただく。

【久保田次長】

- ・以上で本日の日程を終了する。最後に大口副会長から閉会のご挨拶をお願いします。

【大口ハル子副会長】

・挨拶

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 0255-78-2141 (内線 123)

E-mail : itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。